

# 「教職の意義等に関する科目」において 「いま求められる教員像」をどう提示するか ——「教員の役割」及び「チーム学校への対応」をめぐる——

石井久雄

## 1. はじめに

1998年の教育職員免許法の一部改正により、「教職の意義等に関する科目」が新設された。この科目では、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障を含む）」、「進路選択に資する各種の機会の提供等」を取り上げることになっている。今後は、「チーム学校への対応」を含んだ「職務内容」を視野に入れていく必要がある。

この「教職の意義等に関する科目」は、教職課程を履修する学生にとって入門的な科目であり、「教師の仕事を具体的、多面的にイメージ」させることや、「教育の受け手から主体へと立場を転換させる」ことが重要である。それは、「学生の過去（被教育体験）と現在（教員養成）、そして未来（教職を含めた職業選択）を結びつける作業である」ともいわれている<sup>(1)</sup>。

そうした中で、「教職の意義等に関する科目」の授業を展開するにあたっては、「いま求められる教員像」を提示することが有効である。その際、教員に求められる資質能力を考慮することが重要であろう。と同時に、生徒が、どのような教員像を求めているのかを検討することも必要となる。

そこで、本稿では、第1に、文科省が提示する、教員の資質能力の変遷を分析することで、いま求められる教員像を検討する。第2に、質問紙調査の結果

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するかを分析することを通して、生徒が求める教員像を検討する。第3に、両者の教員像を考察することにする。

## 2. 文科省が求める教員像

教員には、どのような資質能力が必要とされているのであろうか。それを通して、いま求められる教員像をみていくことにする。ここでは、中教審答申等から主要なものを取り上げ、概観していく。

### (1) 教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策等について」（1987年（昭和62年）12月）

1987年の教育職員養成審議会答申では、「専門職としての教員の職責から必要とされる資質能力」として、以下の6点を挙げている<sup>(2)</sup>。

①教育者としての使命感。②人間の成長・発達についての深い理解。③幼児・児童・生徒に対する教育的愛情。④教科等に関する専門的知識。⑤広く豊かな教養。⑥これらを基盤とした実践的指導力。

### (2) 教育職員養成審議会答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」（1997年（平成9年）7月）

1997年の教育職員養成審議会答申では、「教員に求められる資質能力」として、以下の3点を挙げている<sup>(3)</sup>。

#### ① いつの時代も教員に求められる資質能力

教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力等。

#### ② 今後特に教員に求められる具体的資質能力

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

- a. 地球的視野に立って行動するための資質能力（「地球，国家，人間等に関する適切な理解」，「豊かな人間性」，「国際社会で必要とされる基本的資質能力」）。
- b. 変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力（「課題解決能力等に関わるもの」，「人間関係に関わるもの」，「社会の変化に適応するための知識及び技能」）。
- c. 教員の職務から必然的に求められる資質能力（「幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解」，「教職に対する愛着，誇り，一体感」，「教科指導，生徒指導等のための知識，技能及び態度」）。

③ 得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性

今後における教員の資質能力の在り方を考えるに当たっては，画一的な教員像を求めることは避け，生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って，全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに，さらに積極的に各人の得意分野づくりや個性の伸長を図ることが大切である。結局は，このことが学校に活力をもたらし，学校の教育力を高めることに資するものとする。

(3) 中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」（2005年（平成17年）10月）

2005年の中央教育審議会答申では，「優れた教師の条件」として，3つの要素を挙げている<sup>(4)</sup>。

① 教職に対する強い情熱

教師の仕事に対する使命感や誇り，子どもに対する愛情や責任感などである。また，教師は，変化の著しい社会や学校，子どもたちに適切に対応するため，常に学び続ける向上心を持つことも大切である。

② 教育の専門家としての確かな力量

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

「教師は授業で勝負する」と言われるように、この力量が「教育のプロ」のプロたる所以である。この力量は、具体的には、子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級作りの力、学習指導・授業作りの力、教材解釈の力などからなるものと言える。

### ③ 総合的な人間力

教師には、子どもたちの人格形成に関わる者として、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格の資質を備えていることが求められる。また、教師は、他の教師や事務職員、栄養職員など、教職員全体と同僚として協力していくことが大切である。

## (4) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(2012年(平成24年)8月)

2012年の中央教育審議会答申では、「これからの教員に求められる資質能力」として、3点を挙げている<sup>(5)</sup>。

- ① 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)。
- ② 専門職としての高度な知識・技能。
  - a. 教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)。
  - b. 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)。
  - c. 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力。
- ③ 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか  
力)。

- (5) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」  
(2015年(平成27年)12月)

2015年の中央教育審議会答申では、「これからの時代の教員に求められる資質能力」として、3点を挙げている<sup>(6)</sup>。

① これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力。

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量。

③ 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力。

以上のように、文科省が求める教員像がある。その変遷をみると、以下のことがいえる。1987年当時、シンプルな形で教員の資質能力が示された。その後、時を経るに従って、ある意味で、より深いより広い資質能力が求められていった。その傾向をまとめると、以下の4つになる。

第1に、専門知識の広範囲化である。自分の担当教科以外の専門知識を求められる傾向が明確になってきている。この流れは、2012年の中央教育審議会答申から顕著になっている。すなわち、「②専門職としての高度な知識・技能 a.教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)」という記述である。

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

それ以降、2015年の中央教育審議会答申でも指摘されている（ex.「情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力」等）。

第2に、実践力の具体化である。この流れは、2012年の中央教育審議会答申から顕著になっている。すなわち、「②専門職としての高度な知識・技能  
b. 新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）」という記述である。それ以降、2015年の中央教育審議会答申でも指摘されている（ex.「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、〈中略〉ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量」）。

第3に、自主的自律的に学び続ける力の強化である。この流れは、2005年の中央教育審議会答申から顕著になっている。すなわち、「常に学び続ける向上心を持つことも大切である」という記述である。それ以降、2012年及び2015年の中央教育審議会答申でも指摘されている（ex.「教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」、「自律的に学ぶ姿勢」）。

第4に、チームで対応する力の強化である。この流れは、2005年の中央教育審議会答申から顕著になっている。すなわち、「教師は、他の教師や事務職員、栄養職員など、教職員全体と同僚として協力していくことが大切である」という記述である。それ以降、2012年及び2015年の中央教育審議会答申でも指摘されている（ex.「同僚とチームで対応する力」、「チーム学校」）。

なお、「チームとしての学校」に関しては、近年、特に重点化されている。2015年12月の中央教育審議会総会において、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」が発表された<sup>(7)</sup>。その背景としては、「いじめ・不登校などの生徒指導上の課題や特別支援教育の充実への対応など、学

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか  
学校の抱える課題が複雑化・多様化」している点。「貧困問題への対応など、学  
校に求められる役割が拡大」している点。「課題の複雑化・多様化に伴い、心  
理や福祉等の専門性が求められている」点が挙げられている。そうした中で、  
「チームとしての学校」を実現するための3つの視点が報告されている。一つ  
目は「専門性に基づくチーム体制の構築」。二つ目は「学校のマネジメント機  
能の強化」。三つ目は「教員一人一人が力を発揮できる環境の整備」である。  
この3つの視点に沿って、学校のマネジメントモデルの転換を図り、体制整備  
をしていくとされている。また、その上で、家庭、地域、関係機関と連携・協  
働することの重要性も述べられている。以上のことから、教員は、今まで以上  
に、教員を取り巻く様々な他者と協力し合うことが求められている。

### 3. 生徒が求める教員像

教員にとって、一番大切にしなければならない他者は、生徒である。その生  
徒は、どのような教員を求めているのであろうか。生徒にとって「いい先生」  
とは、どのような教員なのかを検討する。

#### (1) 調査概要

大学生に、中学時代と高校時代に出会った良い先生について、質問紙調査で  
尋ねることにした。調査概要は、以下の通りである。

- 対象 首都圏に位置する X 大学 教職志望の 4 年生 30 名
- 方法 質問紙法（大学での集団記入式法）
- 期日 2016 年 7 月

#### (2) 生徒が求める教師像

「あなたが中学生、高校生だった時、『いい先生だなあ』と感じた先生は、ど

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するかのような先生ですか」の質問項目（自由記述）の回答を整理した。すると、以下の5つの教員像が浮かび上がった。

### ① 生徒をみる

生徒が求める教員像の一つ目としては、「生徒をみる」教員である。例えば、以下の回答を挙げることができる。「生徒のことをきちんと見ている先生」。「生徒のことをきちんと見てくれて、気持ちの部分で行動する教師は、憧れとなりました」。「本当の意味で『生徒を観る』ことをしてくれる先生。生徒に言葉にしていなくても、生徒を愛していることが伝わる先生」。「生徒一人一人をよく見ることができる先生」等。このように、生徒は、「生徒をみる」教員を求めているといえよう。

### ② 生徒の話を聞く

生徒が求める教員像の二つ目としては、「生徒の話を聞く」教員である。例えば、以下の回答を挙げることができる。「自分の話をしっかり聞いてくれる先生」。「自分の話を良く聞いてくれる先生がいい先生だなと思えますよね」。「小さな悩みであっても、しっかりと時間を作ってくれて、親身に相談に乗ってくれる先生」。「普段の生活で抱えている悩みや不満などを親身に聞いてくれた先生」等。このように、生徒は、「生徒の話を聞く」教員を求めているといえよう。

### ③ 生徒に寄り添う

生徒が求める教員像の三つ目としては、「生徒に寄り添う」教員である。例えば、以下の回答を挙げることができる。「生徒に寄り添い、生徒目線で話してくれる先生」。「生徒の味方になってくれる」。「生徒のことを考えて指導してくれる」。「生徒に関わろうとしてくれる先生。なんとなく自分が生徒であった



「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか  
時も、この先生は私たちに興味がある・ない、が分かりました。「生徒を信頼  
してくれる先生。体験談としては、中学校の頃に、パチンコ玉で教室のドアの  
窓を割ったという問題で、色々な先生が、自分はやっていないのに疑ってきた  
中、ある先生だけが、『お前がやっていないと言うなら信じるぞ』と言ってく  
れた人」等。このように、生徒は、「生徒に寄り添う」教員を求めているとい  
えよう。

#### ④ 生徒をきちんと叱る

生徒が求める教員像の四つ目としては、「生徒をきちんと叱る」教員である。  
例えば、以下の回答を挙げることができる。「ダメなことをした時に、きちん  
と叱ってくれた」。「生徒のために、厳しくしてくれる先生」。「態度の悪い生徒  
にも、動揺することなく、しっかり悪いことは悪いと指導できる先生」。「自分  
に対して、本気で怒ってくれる先生」。「自分の成長のために怒ってくれる先生」  
等。このように、生徒は、「生徒をきちんと叱る」教員を求めているといえよう。

#### ⑤ 人として大切なことを教えてくれる

生徒が求める教員像の五つ目としては、「人として大切なことを教えてくれ  
る」教員である。例えば、以下の回答を挙げることができる。「部活、学校生  
活、授業を通して、人として大切なこと（礼儀や感謝の気持ちなど）を教えて  
くれる先生」。「授業の善し悪しよりも、それ以外の面で指導してくれる先生」。  
「中学生の時には、部活動の指導で、その競技の指導はもちろんの事、精神面  
や学校生活の指導もして頂いた先生」。「知識を身につける事だけが勉強ではな  
いと、教えてくれた先生に関して、何故あのとき自分が先生にそのように言わ  
れたのか、最近ですが理解することが出来ました」等。このように、生徒は、  
「人として大切なことを教えてくれる」教員を求めているといえよう。

ちなみに、教員の最も大切な仕事の一つである授業に関連する回答は、非常

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか  
に少なく、以下の3つのみであった。すなわち、「分かりやすい授業をしてくれる」、「博識で授業で学ぶことが多い」、「知識量の多さ」である。つまり、生徒にとって「良い先生」とは、上手い授業をする先生ではなく、幅広い観点から成長させてくれる先生であると考えられる。

以上のように、生徒は、「生徒をみる」、「生徒の話を聞く」、「生徒に寄り添う」、「生徒をきちんと叱る」、「人として大切なことを教えてくれる」教員を求めている。換言すれば、生徒を一人の人間として認めた上で、きちんと向き合い、しっかりサポートする、いわば「生徒の立場にたった指導ができる教員」が求められているといえよう。さらに、「生徒に寄り添う」という優しい側面と、「生徒をきちんと叱る」という厳しい側面を兼ね備えた教員が求められているともいえる。文科省が求める「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」（1987年の教育職員養成審議会答申）と一部重なる所があるかもしれない。いずれにせよ、教員の奥底にある人間性が問われている。

なお、大学4年生が、中学時代と高校時代に出会った「良い先生」について思い出すことは、過去を振り返る作業となる。また、回答者には、教育実習に行った学生も多く、「良い先生」の姿を、現在進行中の教職課程での学びと結びつけた可能性もある。そして、そのことを通して、未来の自分の姿を形作る作業につなげてくれればと願うばかりである。

#### 4. おわりに

「教員の役割」をめぐる、文科省が求める教員像と、生徒（正確には元生徒）が求める教員像とは、ズレがある。このズレをどう考えたら良いのだろうか。

一つめは、生徒は、教えられた経験が長いだけで、教える立場である教員の現状が分かっていない（「チームで対応する力の強化」等）。なので、文科省が求める教員像を、もっと身につけるべきだという方向性である。

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

二つめは、文科省は、生徒のことを十分には理解しておらず、生徒が求める教員像が分かっていない。なので、生徒目線から、教員像を改めて構築し直すべきだという方向性である。

三つめは、両者のズレをさらにずらして、相対化することである。例えば、「教師は五者たれ」という話がある。すなわち、「①学者たれ（よく学び、専門分野を深めなさい）、②医者たれ（子どもをよく診て、観察し、しかるべき治療を施しなさい）、③易者たれ（子どものそれぞれ持っている長所を見抜き、成長への道筋をつけなさい）、④役者たれ（子どもをひきつけ、楽しい授業が展開できるようにしなさい）、⑤芸者たれ（子どもを楽しませる術を身につけ、子どもの心をひきつけなさい）」である<sup>(8)</sup>。文科省が考える教員像とも、生徒が考える教員像とも、異なる教員像が、世間にはある。そうした世間の教員像を掘り起こしながら、多様な教員像を模索していくという方向性もあるのかもしれない。

教員は、様々な人々との関係性の上に成り立つ仕事である。誰が求めている教員像なのかという視点を持つことも大切であろう。これからも、求められる教員像の模索は続く。

#### 《注》

- (1) 渋谷真樹他「教員養成導入期における教師のライフストーリーの有用性——『教職の意義等に関する科目』への活用に向けて——」『奈良教育大学紀要（人文・社会科学）』第61巻第1号、2012年、1-11頁。
- (2) 教育職員養成審議会答申（1987年12月）「教員の資質能力の向上方策等について」。文科省HP：[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afeldfile/2012/01/23/1315356\\_001\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afeldfile/2012/01/23/1315356_001_1.pdf)（参照日2017年1月8日）。
- (3) 教育職員養成審議会答申（1997年7月）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」。文科省HP：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/old\\_chukyo/old\\_shokuin\\_index/toushin/1315369.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/1315369.htm)（参照日2017年1月8日）。
- (4) 中央教育審議会答申（2005年10月）「新しい時代の義務教育を創造する」。文科省HP：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1347059.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1347059.htm)（参照日2017年1月8日）。

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

- (5) 中央教育審議会答申（2012年8月）「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」。文科省 HP：[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf)（参照日 2017年1月8日）。
- (6) 中央教育審議会答申（2015年12月）「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」。文科省 HP：[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/03/25/1365896\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/03/25/1365896_03.pdf)（参照日 2017年1月8日）。
- (7) 中央教育審議会答申（2015年12月）「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」。文科省 HP：[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/26/1365657\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/26/1365657_02.pdf)（参照日 2017年1月8日）。
- (8) 佐藤徹編著『教職論』東海大学出版、2010年、18頁。なお、長年教鞭を執ってきたある教員の自戒の言葉がある（「教師十戒」）。「一、子どもを、こばかにするな。教師は、無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。子どもは、一個の人格として対等である。二、規則や権威で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。三、近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。四、ほめることばも、叱ることばも、真の「愛語」であれ。「愛語」は、必ず子どもの心にしみる。五、暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに、本当の子どもが見えてくる。六、成果を急ぐな。裏切られても、なお、信じて待て。教育は根くらべである。七、教師の力以上には、子どもは伸びない。精進をおこたるな。八、教師は「清明」の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちをおこさせる心やりを忘れるな。不機嫌、無愛想は、子どもの心を暗くする。九、子どもに、素直にあやまれる教師であれ。過ちは、こちらにもある。十、外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか」（毛涯章平『肩車にのって』信州教育出版会、2016年、7-8頁）。

#### 参考文献

- 赤星晋作編著『新教職概論』学文社、2008年。
- 秋田喜代美他編著『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、2015年。
- 日高和美『「教職の意義等に関する科目」をめぐる今日の動向』九州大学『教育経営学研究紀要』第9号、2006年、51-57頁。
- 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書、2012年。
- 石井久雄「教育改革期における教師像」明治学院大学文学会『人間の発達と教育』第

「教職の意義等に関する科目」において「いま求められる教員像」をどう提示するか

3号, 2007年, 109-124頁。

石村卓也『教職論——これから求められる教員の資質能力——』昭和堂, 2010年。

教職課程研究会編『新教職論』実教出版, 2009年。

溝部ちづ子「教職に関する科目『教職入門』の授業試論」『比治山大学・比治山大学  
短期大学部教職課程研究』第1号, 2015年, 71-81頁。

望月重信他編著『日本の教育を考える——現状と展望——』学文社, 2016年。

中西仁「『教職概論』における教職課程入門の試み」『同志社大学教職課程年報』第4  
号, 2015年, 37-48頁。

山崎準二他編著『新・教職入門』学文社, 2014年。

矢田貞行「わが国における教員養成の現状と展望」『東海学園大学紀要人文科学研究  
編』第21号, 2016年, 109-122頁。